五島慶太氏伝
③

創立者の像

「五島慶太物語」in北見工業大学

北見工大の五島慶太氏像

都市大グループ校内にある五島慶太初代理事長胸像を、「ゆうわ」前号（88号）に掲載し、五島慶太氏はほかにも日本各地で顕彰されていることをご紹介しましたが、本号ではその中から、北見工業大学にある五島慶太氏胸像について触れたいと思います。

北見工業大学は国立大学法人です。そこにどうして我々の初代理事長の胸像が立っているのか、誰でも不思議に思うところですが、そこには五島初代理事長の教育にかける情熱の物語があったのです。

戦後、当時の北海道大学長らが道東に総合大学をつくる構想をもっていたと言われています。その構想を知った北見市の伊谷市長が北見に単科大学を設置して受け皿にしようというところからこの物語は始まります。

それで、昭和33年、北見市議会が国立単科大学誘致を決議し、建設資金も自前で用意したのですが、文部省は認可をせず北見市は悪戦苦闘を強いられました。その後、どうにか文部省の認可をとりつけたところで、また難題が北見市に降りかかります。単科大学設置のため国から1億円の予算がついたのに、実は建設資金が2億円かかることが判明したのです。それで伊谷北見市長が巨額の寄付を願い出た相手が、わが五島慶太初代理事長だったのでした。「教育事業に1億円の寄付をしてくれる人は五島慶太さんしかいない」ということだったようです。

この寄付のおかげで、昭和35年北見工業短期大学が無事スタートし、現在の国立大学法人北見工業大学へと発展することになったわけです。

大学設置費用の半分を寄付した五島慶太氏の功績を顕彰して、同大学構内に胸像が設置され、除幕式が行われたのは、昭和35年（1960）10月30日のことでした。

今日、東京都市大学は、同じく北海道にある室蘭工業大学と連携を進めておりますが、50年前、道東に最高学府をプレゼントした五島慶太初代理事長は草場の陰で目を細めていることでしょう。